

学術集会における将来の小児科医を考える委員会の活動に関する報告

公益社団法人日本小児科学会 将来の小児科医を考える委員会副委員長¹⁾、

同 委員長²⁾，同 委員³⁾，同 担当理事⁴⁾

小西 恵理¹⁾，神田 祥一郎²⁾，松島 卓哉¹⁾，赤嶺 陽子³⁾，伊藤 友弥³⁾，
 恵谷 ゆり³⁾，鹿島田 健一³⁾，島津 智之³⁾，島袋 林秀³⁾，武内 俊樹³⁾，
 土畠 智幸³⁾，福與 なおみ³⁾，村上 てるみ³⁾，永田 智⁴⁾，森尾 友宏⁴⁾

将来の小児科医を考える委員会は小児に関わるすべての問題について若手・中堅医師が中心となって検討する委員会です。活動のひとつとして、小児科医の将来のビジョンを委員のみならず多くの学会員とともに考える場として、学術集会においてカフェを開催してきました。また、当委員会企画のシンポジウムでも、参加者と双方向のコミュニケーションがとれる形式を試みてきました。いずれの企画でも参加者にアンケートを行っており、当委員会の活動成果としてその結果をここに報告させていただきます。

1. カフェ

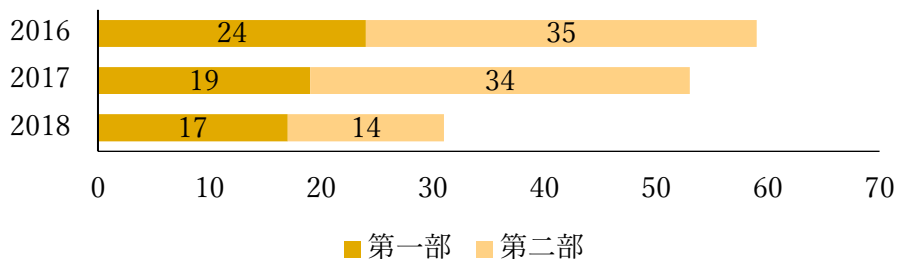
カフェ企画は2016-2018年の3回実施し、毎回午前・午後または午後2回の2部、各60-90分構成で行いました。目的は、1) 小児科学会会員が、長期的観点からの率直な意見を勤務先や専門分野を超えて語り合うことができる場を提供する 2) 会員にとって小児科学会が身近な学術団体となるように理解を深める 3) 学会員の小児科医としての活動や日常、学会に求めるものなど意見を収集する、の3点で、テーブル毎に4つのテーマを設けました。参加者は自由にテーブルを選び、委員のファシリテーションのもと情報交換やディスカッションが行われました。

1) 会場，日程，テーマ

	日程	会場	時間	テーマ			
2016	5/14 2日目	トリアノン (カフェ)	午前	学術・研究	コミュニティ	小児医療体制	将来の小児科医
			午後				
2017	4/15 2日目	馬藍花 (ロビー)	午前	学術・研究	コミュニティ	リーダーシップ	将来の小児科医
			午後				
2018	4/20 1日目	ラコンテ (カフェ)	午後①	新専門医制度	働き方改革	はじめの一本	はじめの一本
			午後②	学術研究	コミュニティ	リーダーシップ	行政との協働

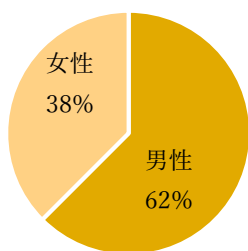
2) アンケート結果

・ 回答数

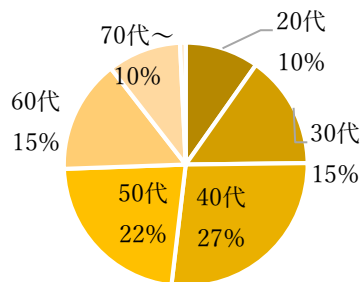


・ 回答者の属性 (3年分の合計)

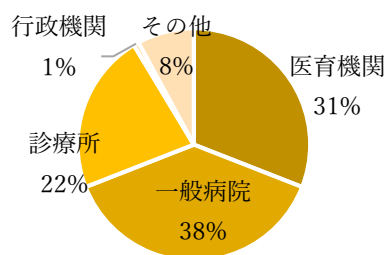
1) 性別



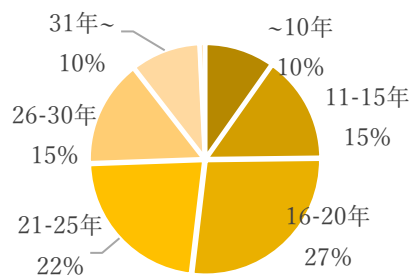
2) 年代



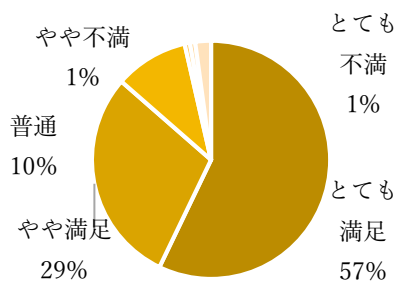
3) 勤務機関



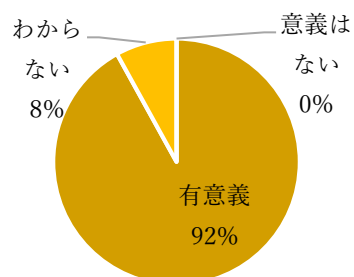
4) 経験年数



5) カフェ企画の満足度



6) カフェ企画を行うことの意義



自由記載

- ・小児科関係について、課題を議論できるのは非常におもしろい、シンポジウムと絡めた議論はすごくいいアイデアだと思う
- ・様々な医育機関、指導者の考え方に触れることが出来、有意義でした。
- ・同じような問題を多くの人が経験しており、ベテランの先生方の話を聞いて有意義だった。
- ・行政と関わる上で、調べても分からない事が、経験者の生の声で聞いておもしろかった。
- ・色々なバックグラウンドを持つ小児科医の方が意見を出しあい話している姿には感動しました。自分も関われる所でサポート出来ればと思いました。
- ・参加者が多様で散漫な議論だったので、ターゲット、トピックを絞った方が良いのでは。

2. シンポジウム

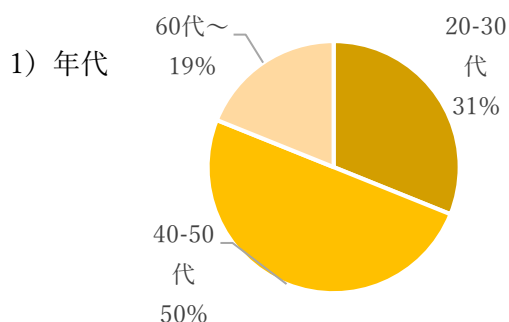
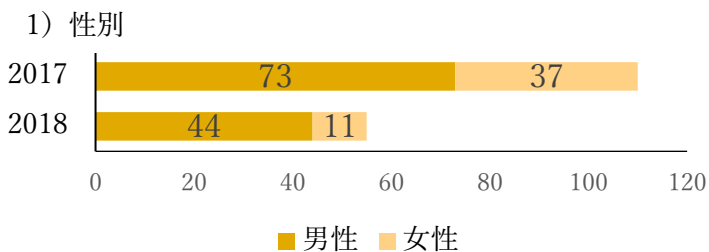
当委員会が企画したシンポジウムは 2016-2018 年の学術集会で計 3 回行いました。うち 2017 年、2018 年はスマートフォン、タブレットなどを用いた双方向コミュニケーションツールを利用して参加者にアンケートを実施しました。日本小児科学会学術集会では初めての試みであり、参加した学会員の興味のある分野や小児科医の将来に対する意見、シンポジウムの感想などについて端的な回答が得られました。

1) 日程, テーマ

年度		演題
2017 2 日目	1	認定 NPO 法人 NEXTEP での活動を通して
	2	地域コミュニティにおける小児科医の役割：在宅医療の視点から
	3	将来の小児科医への提言 2016：学術研究
	4	小児科医のリーダーシップ教育の必要性を考える
2018 1 日目	1	小児科医とコミュニティのかかわり
	2	小児科医も新たな医療体制の構築に貢献できる 災害時小児周産期リエゾンの活動から
	3	知的挑戦・学術発信活性化への方策
	4	小児科医とリーダーシップ

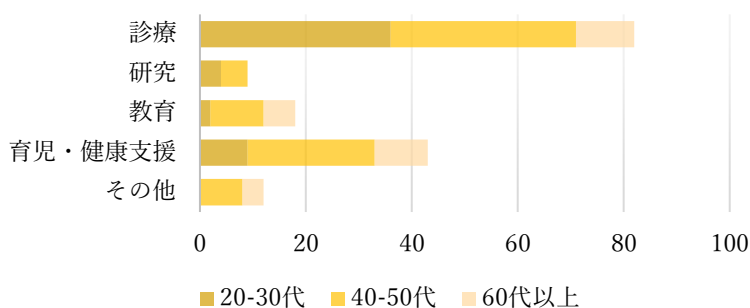
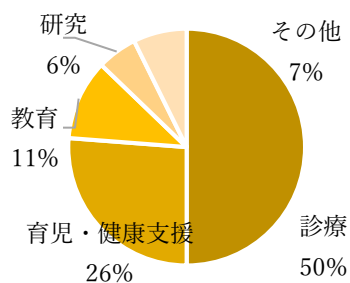
2) アンケート結果

・ 回答者の属性

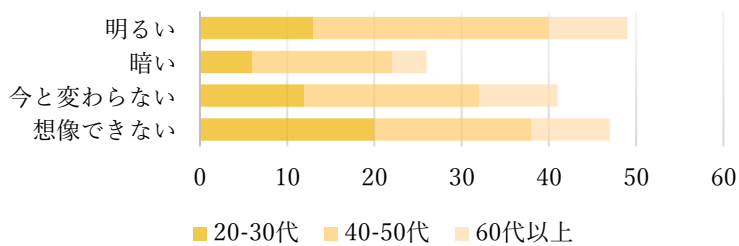
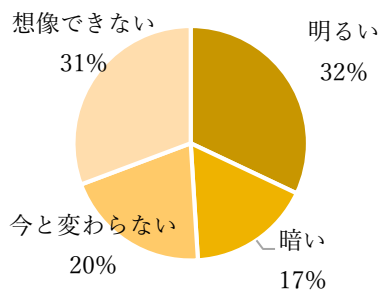


・ 質問への回答

① 今、興味のある分野はどれですか？

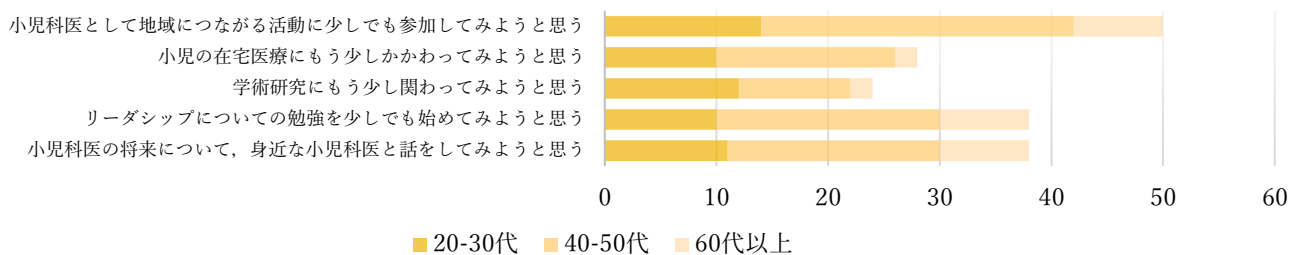


② 小児科医の将来をどう感じていますか？

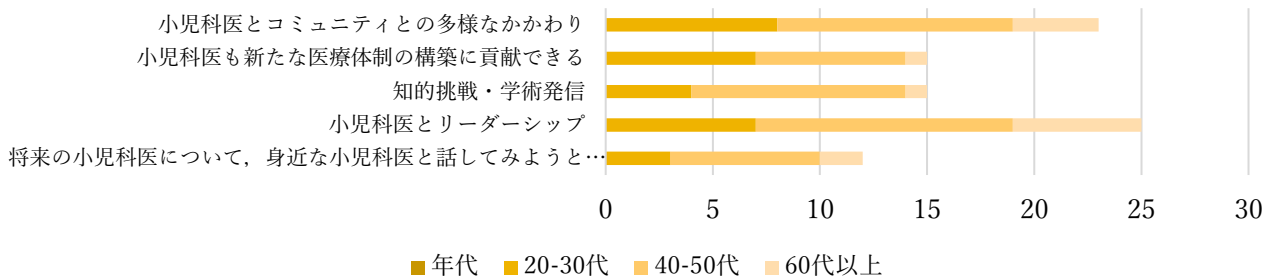


③ 今回のテーマのうち、参加する前と比べて前向きに取り組んでみようと思った分野はありますか？（複数回答可）

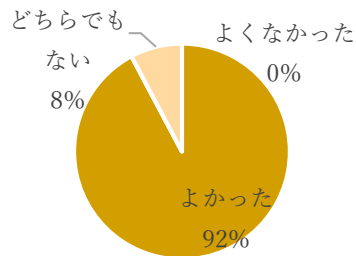
・ 2017年



・2018年



4) 会場アンケートを用いたシンポジウムの感想を教えてください。



3) まとめ

カフェ企画の参加者は、男女比、勤務先において概ね学会員の構成と共通していました。年齢層は若手～中堅をイメージしていましたが、50代以上の参加も多く、多様な年代を交えて交流が行われました。開催年によって参加人数には差が見られましたが、これはカフェを行った日程や場所による影響が大きな要因と考えられました。

シンポジウムの参加型アンケートは、途中で参加者の出入りもあり、質問ごとに回答数のばらつきがありました。参加者が「興味がある」と回答した分野は診療と健康・育児支援の合計が75%と大勢を占め、教育や研究は少数でした。また、小児科医の将来を明るい・今と変わらないと考える参加者が59%であった一方、想像できない・暗いという回答も41%見られました。

カフェ企画、参加型シンポジウムはともに参加者の支持を得ていました。特にカフェ企画では、世代・地域・勤務形態・専門分野などの属性を超えた小児科医間の交流が有意義との意見が多くみられました。小児科医がそれぞれの将来を考えるうえで、また日本小児科学会が学会員の盛んな交流によって活性化することにおいて、これらのような参加型・交流型の企画は有効であると考えます。

小児科医の将来を考える委員会は、今後も学会員が参加・交流できる企画を発展、継続するとともに、当委員会や学術集会に限らず多彩な実りある活動が行われることを願っています。